

ウォーカブル^{すいしんけいかく}推進計画

那加^{なか} from Park ^{こうそう}構想

株式会社^{かぶしきがいしゃ}OUR^{あわー} FAVORITE^{ふえいぱりっと} CAPITAL^{きゃびたる}

(第1回変更)
令和7年4月

ウォーカブル推進計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	岐阜県	市町村名	かかみがはらし 各務原市	地区名	な か 那加 from Park 構想	面積	70.5	ha							
計画期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度	交付期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度

目標
大目標： にぎわいや交流に溢れる那加地区の実現 目標1：公園を中心とした安全で快適に歩ける歩行空間の創出による回遊性向上 目標2：官民一体となった日常的なにぎわいや交流の生まれる空間の創出
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 各務原市では、「各務原市総合計画(2015～2024)」において、将来都市像に『笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～』を掲げ、「便利で快適に暮らせるまち」を基本目標の1つにしている。これを受けて策定された「各務原市都市計画マスタープラン」(2016～2025)では、2本の鉄道の沿線に形成された市街地については、にぎわいゾーンとして、都市の顔としてふさわしい活気に満ちた便利で美しい拠点の形成を図るとされている。西の都市拠点と位置付けられている各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺は、文化教育施設・行政施設・公園等が集積する地区であり、これらの既存施設を活用しつつ、若年世代から高齢者まで様々な世代が集まるにぎわい・交流の拠点の形成を目指している。 「各務原市立地適正化計画(2022～2041)」においては、立地の適正化に関する基本的な方針として、都市拠点に位置付けられた各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺は、市全域の市民が利用する広域的な都市機能や賑わい創出に資する機能の集積を図るとともに、公共空間を市民と協働して魅力的な空間にしていくことで、市全体の魅力やイメージを向上し、都市拠点におけるまちなか居住を促進するとされている。誘導施策としては、近年、公共施設や鉄道駅、教育施設、公園が立地し、民間主体のイベントが行われ、若い世代を中心に多くの市民の交流の場となっていることから、公園を中心としてエリア価値の向上に向けた官民連携による賑わいの創出を展開していくとされている。また、官民が連携したまちづくりを進めていくために、都市再生推進法人の設立に向けた支援等を行っていくこと、公的不動産の管理・活用を検討を行うこと、を挙げている。 当地区は、西の都市拠点の中において、市街地でありながら大学跡地という歴史や環境を受け継ぎ、市民に親しまれる広大な緑地空間を有する2つの都市公園(市民公園・学びの森)があり、近年では官民連携イベント「マーケット日和」を始めとして、民間による交流拠点としての役割もはたしているカフェ「KAKAMIGAHARA STAND」の設置、Park-PFI制度による新たな賑わい拠点「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE」の整備、市民公園のリノベーション計画の策定など、新しいことが始まる場として認識されつつあり、公園周辺には人が集まり、賑わいが創出され始めている。 このような動きの中で、当地区西部に位置する商店街においては、まちづくり会社「株式会社OUR FAVORITE CAPITAL」が令和3年2月に設立され、令和4年10月31日には都市再生推進法人として指定された。これまで、各務原市と連携を取りながら、移住相談、まちの魅力発信など、新たなまちの担い手や関係人口を創出する取り組みを行っており、今後も、まちの交流拠点の整備や、空き店舗の活用などに力をいれていく予定となっている。 公園周辺で高まりつつある賑わい創出に向けた機運を逃すことなく地区全体に広げることで、当地区が抱えている、空き店舗の増加や来訪者が長時間快適に過ごせる場が少ないこと、市内の主要駅である各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅、文化教育施設(小中高大)・行政施設(市役所)・公園等といった施設・公共空間が集積しているにも関わらず回遊性が低いこと、といった課題に対して、各務原市都市計画マスタープラン及び各務原市立地適正化計画に基づき、公園や道路の活用について、都市再生推進法人やまちの担い手とともに取り組むことで、公共空間の魅力が周辺エリアに波及していく一体的なまちづくりを官民連携で取り組むことで、解決を図りたいと考えている。
課題
・公共交通軸を中心とした集約型都市構造に合わせた駅周辺の利便性向上や歩行者ネットワークの形成、回遊性を高める取組 ・後継者不足や郊外型店舗の出店により商店街の空き店舗が増加 ・都市公園等の空間資源を十分に活用できているとは言えず、より使いやすく居心地の良い空間とするために利用者ニーズを踏まえた質の高い空間づくり ・来訪者にゆっくりと交流・滞在を楽しんでもらえる憩いの空間の創出

将来ビジョン(中長期) ①総合計画(後期2020～2024) ＜将来都市像＞「笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～」 ・土地利用の方向性として、美しい自然環境を守りつつ、良好な住環境を拡充し、まちと自然、歴史のバランスがとれた魅力ある都市形成を図ってきた経緯と、今後予想される急激な人口減少を踏まえ、選択と集中、重点化の視点により、これまでの「つくる」ことを中心とした考えから、つくったものを「活かす」考え方へと転換していく中で、活力や賑わいを創出し、都市としての質的な向上を目指す。 ②各務原市都市計画マスタープラン(2016～2025) ・2本の鉄道と国道の沿線・沿道を中心に形成された市街地は、都市の顔としてふさわしい活気に満ちた便利で美しい拠点の形成を図るにぎわいゾーンとする。 ・西の都市拠点に位置付けられた各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺は、文化教育施設・行政施設・公園等が集積する地区であり、これらの既存施設を活用しつつ、医療、福祉、商業等の都市機能の集積を高め、若年世代から高齢者まで様々な世代が集まるにぎわい・交流の拠点の形成を目指す。 ・地区別構想として、古くからの商業地である那加駅・新那加駅周辺は、商業地としての機能を充実、強化するため、歩道整備、駅や連絡通路のバリアフリー化等のハード的な事業や商店街活性化施策等の各種ソフト事業の展開、土地の高度利用により、商業拠点としてふさわしい商業地の充実を図る。 ③各務原市立地適正化計画(2022～2041) ・都市拠点に位置付けられた各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺は、市全域の市民が利用する広域的な都市機能や賑わい創出に資する機能の集積を図るとともに、公共空間を市民と協働して魅力的な空間にしていくことで、市全体の魅力やイメージを向上し、都市拠点におけるまちなか居住を促進する。 ・「公園を中心としたエリア価値の向上に向けた官民連携による賑わいの創出」多くの市民の憩いの場となっている市民公園・学びの森エリアにおいて、周辺の公共施設の駐車場等の公共空間において、緑の中の賑わいのある新しいまちの顔とする賑わいを創出する事業を推進することにより、エリアの価値をさらに高め、民間とパートナーシップを構築する官民連携事業を展開しています。 ・「官民が連携したまちづくりの推進」都市機能誘導区域等において、公共空間の維持管理や有効活用等により、にぎわい創出や交流の促進に資するまちづくりを官民連携を進めます。 ・「関連する施策」都市再生推進法人の設立に向けた支援等 ・「公的不動産の管理・活用」公共施設等総合管理計画等と連携を図り、民間事業者の活力とアイデアを導入した官民連携による公的不動産の有効活用など幅広く検討を進めます。 ④各務原市緑の基本計画(2016～2025) ・「歩くことの楽しい安全で美しいまちへ」 健康的で、日常の暮らしの中で、自然と郷土の歴史文化に親しみ、歩いて楽しく、安全で、美しい緑豊かなまちづくりを行う。 ・「まちのエリア」身近な公園、季節を彩る街路樹の整備、公共施設の緑化、住宅や工場等の緑化、地域の歴史を伝える社寺の緑の保全など、緑の拠点をネットワーク化させて、美しいまちづくりを市民と行政が協力して育てていく。 ⑤各務原市公共交通網形成計画(2015～2024) ＜交通将来像＞ ・鉄道及び路線バスを公共交通体系の東西軸とし、ふれあいバス、タクシーが相互に連携し、地域住民の生活行動に応じた利用しやすい公共交通ネットワークを形成することで、「鉄道やバスを利用して、皆が健康で、安心かつ快適な暮らしを実現できるまち」の形成を目指す。 ・将来的にも公共交通が維持されるよう、地域住民・各務原市・交通事業者がそれぞれの立場を尊重しつつ、利用者の視点から公共交通ネットワーク形成に向けた三位一体の取り組みを実施するなかで、市民生活に必要な公共交通を皆で育てていく。

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画
滞在快適性等向上区域の考え方 那加商店街から2つの都市公園までを滞在快適性等向上区域に設定して、歩道改修などにより歩きやすい歩行者空間を確保するとともに、沿道の空き店舗と出店希望者のマッチングによる遊休不動産の活用により、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。 滞在快適性等向上区域での取組 ・商店街から市民公園及び学びの森につながる通りにおいて、ゆとりがあり歩きやすい歩行者空間を創出する。 ・旧公共施設(東垂町会館)の再整備を行い社会実験や情報発信、滞在者交流の拠点とする。 ・空き店舗と出店希望者のマッチングによる遊休不動産の活用。 ・新規創業者が店舗改修をする際に利用できるようにオープンスペースとして「まちの作業場」を開設。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	
						目標値	目標年度
駐車場利用台数	台／年	市民公園東駐車場の1年度間の利用台数	賑わいと憩いの空間の創出により都市公園の利用者数が増加することに伴い、駐車場利用台数が増加する。	216,741台	R4年度	249,252台	R10年度
鉄道駅乗降者数	人／年	名古屋鉄道市民公園前駅の1年度間の乗降者数	賑わいと憩いの空間の創出により都市公園の利用者数が増加することに伴い、最寄りの鉄道駅の乗降者数が増加する。	153,855人	R4年度	157,505人	R10年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【車移動から徒歩移動へ。エリア内の歩行/自転車による回遊性の向上と賑わいの創出】 ・回遊性を高めるサインの整備 ・エリア内の滞在時間を延ばす ・出かける動機となる魅力的な目的地の創出とその情報発信		【基幹事業】エリア回遊性に関する社会実験 【基幹事業】案内板・サイン設置 【提案事業】WEBサイト構築・運営(那加地区WEBページの作成、取材、情報発信)
【魅力ある滞留空間・交流拠点の創出】 ・憩い・待合い等のための滞留空間の整備 ・利便性向上のためのサービス機能集約 ・その他交流拠点にふさわしい新規機能導入(情報提供機能の充実等)		【基幹事業】まちなかハブセンター整備(旧公共施設(東亜町会館)及び旧文具店の再整備) 【基幹事業】空き店舗に関する社会実験 【基幹事業】コーディネートに関するイベント 【提案事業】空き家・空き店舗改修
【エリアの魅力を高める新規創業の支援】 ・空き家、空き店舗の利活用 ・エリアの魅力になるような新規創業(店舗、事業)支援 ・都市公園も含めたエリアの一体的な快適性の創出		【基幹事業】空き店舗に関する社会実験 【基幹事業】 【関連事業】 【協定制度等】
その他		
【その他官民協働の取り組み事例】 ・AtoZ Project(令和4年スタート) 那加地区にA からZ まで、26 個のコンテンツをつくる各務原市との協働事業。コンテンツ同士の関連性を見せることによって、まちの回遊性の向上を狙う。 各拠点にはA`Z を頭文字として役割を与え(物件の外壁にアルファベットを印字、マップの制作等)、まちに必要な役割を提示することで、一つ一つのコンテンツのまちに対する存在意義を明確化する。 旧精肉店をリノベーションし、令和4年12月にオープンしたOUR 食堂は、公園からその周辺に回遊するきっかけとなる拠点という意味を込めて「A=Around(周辺)」としている。 A～Z すべての拠点が揃ったとき、本事業においては、まちに必要な役割が充足したと定義し事業の完結とする。		

様式(1)-④

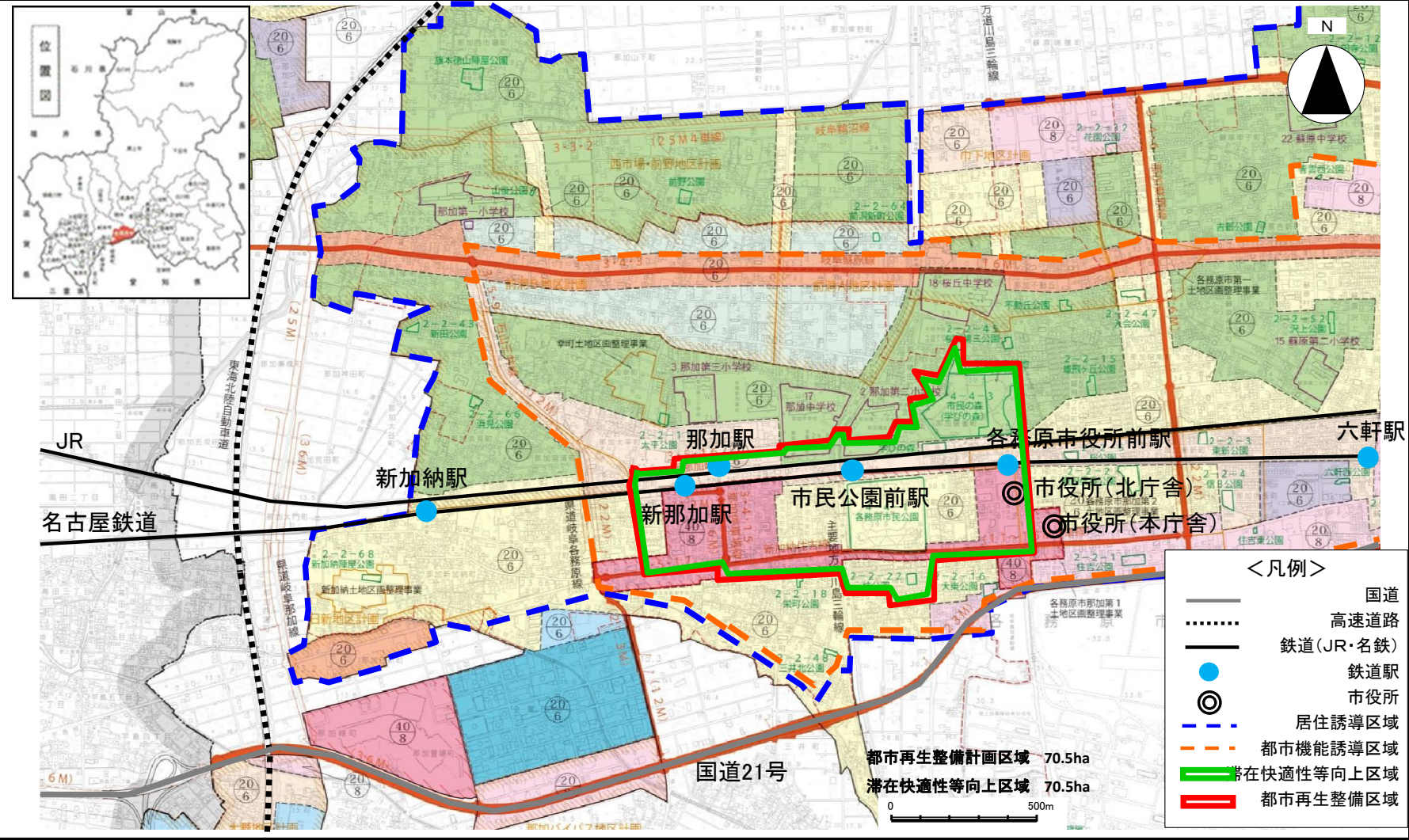
(金額の単位は百万円)

...A

...B

[illegible]

那加 from Park 構想(岐阜県各務原市)	面積	70.5ha (70.5ha)	ha	区域	各務原市那加太町、新那加町、西野町、楽天地町、本町、吾妻町、日之出町、東那加町、元町、北栄町、栄町、門前町、南栄町、楠町、雲雀町、桜町
--------------------------	----	--------------------	----	----	---



那加 from park 構想(岐阜県各務原市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	にぎわいや交流に溢れる那加地区の実現 目標1:公園を中心とした安全で快適に歩ける歩行空間の創出による回遊性向上 目標2:官民一体となった日常的なにぎわいや交流の生まれる空間の創出	代表的な指標	駐車場利用台数(台/年)	216,741(4年度) → 249,251(10年度)
			鉄道駅乗降者数(人/年)	153,855(4年度) → 157,505(10年度)

